

お腹がすきました

I am hungry. [英語]
 Gutom na ako [タガログ語]
 गीउ हिउ [タイ語]
 मलाई भोक लाग्यो [ネパール語]

PHD運動とは

PHD運動とは昭和37年(1962)より約20年間、ネパール、東南アジアを中心とした発展途上国で医療活動に従事された岩村昇博士の提唱による国際ボランティア運動です。これまで自分のためにだけ使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和づくり(Peace)健康づくり(Health)を担う人材をつくる(Human Development)運動を世界中にひろめることを目的として、昭和56年(1981)からはじめられました。

PHD LETTER

No.12 発行1984年9月20日

編集発行 財団法人 PHD協会
 〒650 神戸市中央区元町通5-2-3
 甲南サンシティ元町ビル7F
 電話 神戸078-351-4892
 郵便振替 神戸9-23625 (PHD基金事務局)
 神戸1-29688 (財団法人PHD協会)
 定価100円 印刷所 マルニ出版印刷

空手集めのアイデアがとうとう実現したもう一つ前編を!!

1984年8月6日 決断の命の岩村昇
 サンバ君は大変な決心をしました。折角ネパール結核予防会の古い取組で、関係者からも信頼され、ネパールの一般の人から受け、うらやましい月給取りですの、それをやめて、首都のカトマンズからバスで2日も行き、その先は歩いて3日という西ネパールの山の中に住みこみ、というのです。その僻村で貧しく病める草の根の人達の為に働くというのです。

「収入は?」「ありません」「どうやって生きて行く?」「百姓を雇います。」「奥さん子供さん達は?」「近くの町に置いて、自分だけ特別に貧しい村に入ります!!」

私は、無謀だと思われたのですが、「PHD研修生としてならば、日本に来て、PHD関係の日本の友人さんにお世話になりながら、PHD運動の内容及び目的の集まりが私の心に決まっています。PHDは政府が指導しお金を出して始まったのではない、日本の市民一人一人が、とき、ちよ、おせ、おかねの10パーセントを献げられることではじまり、今までつづき、今オカもひろがって行く運動で、それは私の国ネパールのあぐまはれない人達の為、アジアの困窮して居る人の為をやるという事、わかつた文ではない、私の心に決まっています。」「アジアに平和と健康を運ぶ人達を育てる為、10パーセントを献げられて下さる方一人一人にお会いさせていたが、その御生活の中に入れていただき、その尊いお心が私の弱心を強くして下さったのです。」「前から考えて居た「ネパールの中でも特に患はれない人の為に働く」という決心が固くなったのです!!」のつも静かなサンバ君が、目を輝かせ、熱を帯びたネパール語で、深い胸の底まで「悔いて居るのか私にはよくわかりました。何事も念を神に確かめたと「よしやり給え!!」とサンバ君の手をききまわりました。

サンバ君は、このPHD精神にもって「ネパールの僻地で働く」計画を書き上げ、PHD事務局に提出しました。事務局の皆さんがその計画を念に検討して下さい、必要を要費も、もともと全ての研修生の為に組むアワード・アツプ費用一当り予算の枠内です。とて認めて下さいました。アワード・アツプとは、PHD研修生が帰国後、「自分の10パーセントを献げ、貧しく病める人の為に働く」日常が始まるまでの4年間、日本からPHDボランティア、道具そして経費を支援するのです。これはサンバ君が「アワード・アツプ」研修生も今からの研修生、以後同様です。このアワード・アツプの費用を生かす大智慧を、空手集めアツプ何か? 貴方に教えていたのです!!



ネパールの病院で結核の少年を診察する岩村博士(59.1)
 Dr. IWAMURA is checking the Tuberculosis-stricken boy in the hospital, Katmandu, Nepal in January, 1984.

昭和58年度決算報告

昭和59年3月31日現在

収入の部 (円)		支出の部 (円)	
基本財産運用収入	2,444,585	管理費	8,713,628
事業収入	1,452,462	研修事業費	8,754,427
補助金収入	2,000,000	啓発事業費	2,347,005
寄附金収入	36,932,404	助成事業費	14,197,319
基本財産寄付収入	35,000,000	基本財産支出	65,000,000
雑収入	1,025,637	予備費	0
前期繰越収支差額	30,298,153	次期繰越収支差額	10,140,862
合計	109,153,241	合計	109,153,241

基金寄託状況 (会費を含みます)

4月	¥1,891,098	201件	7月	¥4,204,954	390件
5月	¥1,173,489	123件	8月	¥2,468,936	176件
6月	¥954,513	67件	計	¥10,692,990	(957件)

お知らせ

・昭和59年9月1日より、右記の新しい郵便振替口座をもうけました。当分の間、これまでのPHD基金事務局口座番号(神戸9-23625)もご利用いただけます。
 ・今まで神戸新聞紙上に基金寄託者のお名前と金額を載せて頂いておりましたが、今後は毎月月初旬に前月分の件数と金額の合計のみとなりますのでご了承下さい。

口座番号 神戸1-29688
 名称 財団法人
 ビー・エイチ・ディー協会

第2期研修生 [1班]

サンバさん帰国

彼自身の素晴らしい成長を土産に!

体験したPHD精神を今後に生かしたい 力強く答える彼

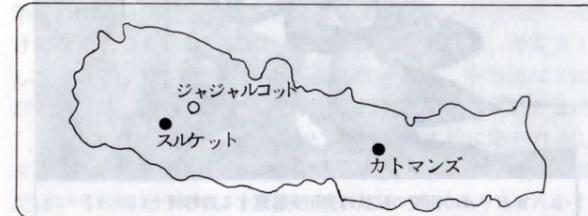
8月8日、1年の研修を無事に終えたサンバさんは、大阪空港よりネパールへ向けて帰国しました。皆様のご協力、本当にありがとうございました。1年間のPHD研修を受けてゆく中で、サンバさんは変わってゆきました。臨床検査技師の資格を持つサンバさんは、ネパールでは職に困ることはありません。都会で十分、食べてゆけます。けれどもサンバさんは、これまで勤めていた結核予防会をやめ、都会暮らしもやめて、無医村の僻地に住みこんで活動する決心をしました。日本にやって来るまで、彼は、日本はお金持ちの国である、と思っていました。ところが、ある病院で実習中、非常に驚いたことがありました。その病院に入院しておられたおばあさんは、病院から配布されるティッシュ・ペーパーを使う代わりに、ハンカチを何度も洗っては使い、ティッシュ・ペーパーは業者に換金してもらって、そのお金をPHD協会へ寄付して下さいました。それを知ったサンバさんは、日本人の心、PHD協会のお金、これらはとても尊いものであると、痛

切に思いました。「日本の人たちは、アジアの貧しい人のために、という気持ちで、いろいろ協力して下さいました。私はPHD研修生として、日本の人たちの協力のもと、1年間日本で勉強することができた。日本の人たちの心に伝えるためにも、ネパールの貧しい人々が少しでもよくなるように、村、山の中に入ってゆきます。」と思うようになったわけです。「奥さんや子どもたちを犠牲にしてもいいのですか」という私達の問いかけに、「山や村の子どもたちは、とても大変です。私の子どもだけが子どもじゃない。山や村の子どもたち、ネパール人みんなの子どもです。」と力強く答えるのでした。

みなさん、ここからどうもありがとうございます。ごさいました。みなさん、ネパールきたとき、わたしのフロジューク、みたくたい。サンバ、メール、カスター。

ネパールでの活動予定

住民自らによる健康づくりを広める



サンバさんは、住民自らの手による健康づくりを広めていくため、次のような計画をたてています。

活動地域

ジャジャルコット = カトマンズから西へ500km、バスで2日のスレケットから徒歩で3日のところに位置する。このジャジャルコットを中心にそれぞれ徒歩で3~4日のところに6つの村落があり、ここで活動を予定。この地域は、生活面、教育面、医療面、産業面にわたり多くの困難を抱えている。家族は、スレケットの街に住ませ、サンバ氏が単身でジャジャルコットに入る。

目的

結核予防会職員として山や村をまわったサンバ氏の経験では、専門家の時々の訪問指導では、住民は実践しようとしなない。自分たちの健康づくりは、自分たちで行うことが大切であるが、そのためには、サンバ氏が対象の地域に住み込み、自ら行うことによって手本を示し住民への普及を計ることが効果的であると考えた。

計画の内容

- 1) 各村の世話役11名に顕微鏡の操作、結核菌の検出法をはじめ、指圧、看護の仕方など保健衛生の知識・技術を指導し、リーダーの養成をはかる。彼等とともに住民への普及につとめる。
- 2) 結核患者の発見に努め、ネパール政府支給の薬品を届け、定期的な巡回指導も行う。
- 3) 実験農場を作り、栄養面の指導を行なう。
- 4) トイレ作りをする。
- 5) 子供を対象にした保健衛生教育を行なう。

集団生活研修

・小中学生も参加・研修生同志、熱心な討論

7月11日から16日までの6日間、多紀郡篠山町のたんば農文塾で、集団生活研修を行ないました。帰国を控えたサンバさん、沖繩から真黒に日焼けして前日に帰って来たウィリーさんとレネさん、岐阜から参加のビジュヌさんの計4名の研修生の他、講師の先生方、一般参加の皆さん(今回はインドの方も参加されました)と共に楽しい合宿となりました。土、日曜日を利用して、小・中学生の参加も多く、研修生と、山に芝刈りに行き、たき木で火をおこし、料理を作るなど、共に汗を流して働きました。ネパールの8mmフィルムの上映や研修生との座談会も行ない、活発な質疑応答がなされました。フィリピンでは、犬の肉を食べることを聞いた生徒さんたちは、とてもびっくりしていました。ネパール料理をネパール式に右手でつかんで食べたり、文化の違いを体を通して学べたようです。今回の合宿で一番驚き、かつ嬉しく思ったことは、自由時間に研修生4人が集まり、「PHDとは何か」「研修生の役割は何か」等、真剣に話し合っていたことです。しかも日本語で。11月には、12月に帰国する3人の研修生のまとめの合宿を行ないます。多くの方が参加され、研修生と友だちになることを期待します。きっと何か教えられるよ!!



帰国後のPHDプログラムについて、日本語で討論する研修生
 PHD Trainees are discussing their future program in Japanese language at Nobunjuku, Sasayama.

現況報告 幅広く 農業体験をする

ビシュヌさん 4ヶ月間の岐阜県種鶏場での研修も終わりました。人工授精、雌雄鑑別も90%以上の確率でできるようになり、種鶏場の他に、岐阜県下での平飼養鶏の実習も行ないました。

ウィリーさん 6月下旬、嘉手納から再び石垣島に渡り、稲刈り実習をした後、7月上旬、レネさんと共に兵庫県にもどって来ました。小野市のふえろう村、佐用郡で有機農業、加古川で大豆、加東郡で養豚を張り切って勉強しました。

レネさん 小野市のふえろう村、大阪の能勢農場という集団農場で有機農業を学びました。夏休みということで、児童の農業教室が開かれており、そちらの方のお手伝いも多かったのですが、農業以外に貴重な経験をしたようです。

3人とも9月中旬に、姫路市で豆腐・味噌作りの実習を行ない、10月から約1ヶ月間、広島県農業者大学校で、主に野菜について勉強します。帰国までに、いろいろな農場の見学もさせて頂きたく思っています。

研修生の日本の印象

ビシュヌさん(ネパール)
ウィリーさん・レネさん(フィリピン)

研修生が日頃、ポツポツともらす日本人の生活に対する感想を紹介したいと思います。皆さん、彼らの言葉に耳を傾けてみましょう。

◆私の国では、髪を洗う時、シャンプーを使うのはお金持ちだけです。石けんを多く利用しますが、木の葉や泥で洗う人もいます。村の子供達の中には、石けんをお菓子と間違えて、かんでしまう子もいます。日本は、いろいろそろっているのいいですね。

◆私が日本に来て、初めてPHDの事務所に行った時、鉛筆立ての中にさきさきしている鉛筆とボールペンにびっくりしました。数が大変多かったのです。私の地域では、鉛筆も1人1〜2本ぐらいしか持たず、大事に使うのですが、日本はすごいなあ、と思いました。

◆わからないことがあります。日本の人々は、おいしいごはんをたくさん食べても、あまりいい顔をしていません。難しい顔をして「仕事が大変だ」と言います。私の村の人たち、とうもろこしの粉しか食べることができなくても、大変幸せそうな顔をしますよ。日本の人々、ごはん食べても幸せではないのかなあ。

◆「お父さん、お母さん、休んで下さい。私が働きます。」と私の国の子どもたちは、両親の手伝いをします。日本では、親が全部して、子どもたちはあまり動こうとはしないみたいですね。子供は親の手伝いをするのが、私の国ではあたりまえなんです。

◆私の村には、100軒ぐらいの家があります。私は、それぞれのお家の名前、家族、職業はもちろん、どんなものを食べているのか、収入はどれぐらいかも知っています。道を歩いていると、「どうぞあがって下さい。話をしましょう」と声をかけられます。日本でも私は近所の人たちと、話がしたいのですが、なかなかできません。私の国の人たちが、日本人と同じように一生懸命働いたら、国も発展してゆくと思いますが、暖い心のふれあいは失いたくないと思います。

《 予定表 》

ビシュヌさん	ウィリーさん	レネさん
1984 8 9 養鶏 (岐阜県種鶏場/天本さん宅) 中村養鶏野化場 (岐阜県山県郡・寺町さん宅)	野菜 (兵庫県佐用郡・羽野さん宅) 養豚 (兵庫県加東郡・山田さん宅)	野菜・家畜 (兵庫県小野市・ふえろう村塾) 野菜・畜産 (大阪府豊能郡・能勢農場)
10	農産加工 (姫路市内豆腐店、味噌店)	
	野 (広島県農業者大学校)	
	平和島学習 (広島市)	
11	畜産 (兵庫県内農業家庭)	みかん (兵庫県・和歌山県)
	野菜・大豆 (兵庫県内農業家庭)	
	集団生活研修 (神戸市内)	
12	帰国	帰国

PHD月間行事 空き缶回収散歩行なわれる! 於 須磨浦公園、海岸



去る6月24日(日)、兵庫商業高校生徒会、一般協力者の参加を得て、スタッフ、ボランティア、共に力を合せて快い汗を流した後、自己紹介など親睦の輪をひろげました。

草の根交差桌 (その六) <ダサイン>

ネパールには、しょっちゅうお祭りがあり、そのせいか、休日が大変多いそうです。なかでも10月の収穫を祝う大きな祭「ダサイン」は、日本の盆と正月を合わせたような賑やかさで、遠くへ働きに行っている子供達も帰ってくるので、家族中が顔を合わせる最も楽しい時です。ただこの祭、1ヶ月位続き、役所関係など公的機関が、いっさいストップするので、ダサインに入る前の週は、手紙の発送やら色々な手続きやらで、人々は大変忙しい日々になるそうです。

そして、いよいよ祭になると、この地独特のティカが行なわれるそうです。(ティカ……罪の清めを意味しており、生け贄にする動物の血で、額の真中に印をつける。)

それは、長老から年少者へ、夫から妻へというふうに行なわれるとか……その後、全員揃って祝いの食卓につきます。この時、一般家庭では、山羊をおとして、色々な馳走を作るのだそうです。岩村先生ご夫妻は、現地の人々から、この祝いの食卓に、よく招かれたそうです。その時の食器にまつわるおもしろい話を、聞かせてもらいました。

日常の食器は、ほうろくやステンレス製の物を使いますが、お祭りやクリスマスなどでお客を迎え、料理数が増えると、人々はサラの木の葉で食器を作るのだそうです。

―サラの葉数枚にひごを通し、食器らしき丸みをつけながらも簡単に編みあげる。この出来上がった食器に料理を盛りつける。そして中味を食べ終えるやいなや、人々はこの食器を「ほい」と庭先に投げる。するとそこへ家畜がやってきて、何くわぬ顔でそれを食べ去る。庭は又、もとのままだ。――なんと合理的! 無駄がありません。家畜も味のしみたサラの葉が食べられさきと満足なのでは……?

私たちが仮に、文明国から放り出されたなら、まず食物さがしや、食器作りから始めなければならぬでしょう。頭ではわかっていても、いざとなると果たして、どれだけの人が、サバイバルできるのでしょうか。そのためにも、日頃、野山で子供たちと遊びながら、自然野草の採取、あるいは自然素材を用いての日用品の手作りなどに挑戦しておいても悪くはないですね。



挿画 西山 喬氏

PHDサウンド

4 世界のPHD運動 グループ紹介

「高砂市立荒井小学校」 小学校から広がるボランティアの輪

高砂市立荒井小学校教諭 足立 陽三

先日、小学生9人と共に、たんば農文塾での交流合宿に参加いたしました。江戸時代の農家、かまど、五右衛門ぶろ……。何もかも不思議で子供達は感激していました。まきの割り方や火のおこし方なども覚え、食事はネパール料理、もちろん右手をはし代わりにして食べ、ふだんの給食で残す子供も全部たいらげました。子供達は向こうの国情をきき、日本は恵まれ過ぎていると感じたようです。言葉は通じなくても心は一つ、純粋で素朴なネパールの人達から多くのことを学びました。

私がPHD運動を知ったのは、去年の4月です。岩村昇先生の話に感動し、いてもたってもいられなくなりました。同じ宇宙船地球号の仲間として、今私たちにできることは何か……。ちょうど本校では、6年前から老人ホームの慰問を続けていたグループを母体に、昨年4月にボランティア・クラブが発足しました。そして老人ホーム、独居老人宅への慰問、駅、公園の清掃などの活動をしてきたのですが、一方、ネパールやアジアの様子をきき、古切手集めや募金活動もすることになりました。今年本校の児童だけでなく、親のボランティア・クラブができるなど、育友会も協力して頂けるようになりました。そして保育園、中学校などにも呼びかけ、今、地域にボランティアの輪が広がっています。

7月7日(土)には、ネパールのサンバさんが本校に来られました。サンバさんはネパールに帰られたら、家族と離れて、山奥の無医村にはいられるそうです。「家族と離れてさみしくありませんか」という質問に、「私にとっては、自分の子どもも山の子どものみんな大切な子どもです」と答えられ、そのことばにとっても感動しました。

10月26日(金)には、お忙しい時間をさいて、本校に岩村先生が来られることになりました。私達の講演の申し出を快くお受け下さった先生に、本当に感謝いたしております。「生きることは分かち合うこと」このことを肝に銘じ、これからもいきの長い活動をしていきたいと思います。

理事会・評議員会の報告

§ 理事会報告

さる8月27日(月) 兵庫県公社館で、第8回財団法人PHD協会理事会が開催されました。議題は1.基本財産造成の件 2.評議員選任の件 3.諸規定制定の件 の3つでした。総主事に草地賢一氏が選任された旨の報告がありました。

§ 評議員会報告

第8回理事会に引き続き、別室で第1回評議員会が開催されました。兵庫県知事坂井時忠様の来賓あいさつ、評議員並びに理事の紹介、国際交流について岩村昇理事のスピーチ、PHD運動の経過と現状報告があつて、評議員会の議事に入りました。今井鎮雄理事長より諮問事項についての説明があり、その内容は、1. PHD運動の啓発 2. PHD会員の拡大 3. 基本財産充実に3つに要約されます。

これら三つの小委員会を組織することが決議され、今後の具体的な活動については、各小委員会で話し合われることになりました。

評議員に選任された方々のお名前は右記のとおりです。

評議員ご芳名 (順不同・敬称略)

高橋 正行	高橋 弘	前田 光俊	岡田 重一
井上 源作	黒沢 尚男	横貝 松芳	西田久美子
依藤とみ子	妹尾美智子	園田 清子	高木 正徳
出口 源市	長田 隆造	前原 均	俣野 貞雄
柴田 昭雄	住友 義昭	岡北 正司	亀井 澄
高村 勲	藤井 保	三好伊之助	青 正輔
阿部 幸三	卯野健次郎	石原 良昭	間場 和夫
古谷 武雄	東山 千代	河合 敏夫	小笠原 正
土井 芳美	川崎亮太郎	多田 實	森本 嘉力
斉藤 実夫	舟坂 勝	早戸 司和	鍵本 昌三
坂本 邦夫	木下 儀次	三木 一逸	吉田 哲司
白根 洋三	丘澤 佳紀	長谷川安次	



荒井小学校を訪ねて千羽鶴を贈られるサンバさん(1984.7.7) Mr.Kayastha was welcomed with "Senzazuru" on his visit to Arai elementary school, Jul.7, 1984.

高砂市立荒井小学校6年 梶 桂子

私はたんばさき山の農文じゅくで、ネパールのサンバさん、アディカリさん、フィリピンのウィリーさん、レネさんたちと一日生活を共にして、いろんな話を聞きました。そんな話を聞いていると、私たちはとてもぜいたくだなーと思いました。ペン1本買うのもネパールの人たちはたいへんなのに、私たちはめぐまれます。いつもむだづかいばかりしています。それに私たちと同じくらいの子どもたちが、片道3時間もかけて水くみに行ったりして、学校に行きたくても行けないそうです。行きたくないのに行っている私たちとえらいちがいます。又、ネパールの山の方たちは、かからなくてもいい病気にかかり、死んでしまう人たちだっただくさんいます。とても悲しいことです。

私たちの学校では、去年から、古切手集めをしています。今年の5月にネパールの映画をみてからはみんなすごいです。

家の人や近所の人協力して古切手のはこはいつもいっぱいです。一人でも多くの人助かるのならと、みんなひっしです。サンバさんをはじめ、研修生のみなさん、これからも国へ帰ってがんばって下さい。私たちも自分たちのできることをせいっぱいがんばります。それに私は将来、人に役立つ仕事につきたいなーと思っています。そして、人のためになることを一生続けます。